

あとがき

1982年のことだった。両眼の白内障に対して眼内レンズ移植手術を受けて、両眼とも裸眼遠方視で1.0の視力となったある患者が、外来の待合いで老眼鏡も掛けずに文庫本を読んでいる姿に驚いた。単焦点の眼内レンズでは遠方視、近方視ともに裸眼視力が良好になるはずがないと思っていたからだ。

そこで眼内レンズ術後の患者30名に協力していただき、他覚的屈折度から求められる焦点と石原式近点計で求められる自覚的な近点とから、見かけ上の調節力を計算してこの値を眼内レンズ移植眼の偽調節と称した。総計40眼について偽調節を求めたところ、焦点から近方方向に平均約2Dの偽調節があることがわかった。さらに検討すると、偽調節値は瞳孔径に反比例する傾向が最も顕著であることがわかり、偽調節は眼の焦点深度に深く関連する現象であると結論した（「AJO」1983, 「IOVS」1984）。ところが実際の人眼での焦点深度はせいぜい0.05D程度であるとの指摘を受け、その本態は完全には解明されずに今に至っている。

最近、屈折矯正手術の進歩により眼の光学系の理解が進み、さまざまな収差が測定できるようになってきた。本誌今月号でも先月号に引き続き、大沼一彦氏の「屈折矯正手術に役立つ眼光学」が掲載されている。そこでは波面収差やコマ収差などの解説があり興味深い。これらの収差が偽調節に影響を与えている点などがシミュレーションによって図示されており、以前は考えもしなかった要因が偽調節に関係していることが理解される。しかし、同様に収差がまったくない場合でも瞳孔径2mmで約2Dの近方方向への偽調節が存在するように解釈される（本誌8頁、図2）。とすると、さまざまな収差は偽調節を修飾する因子ではあっても、その本質的な要因は別の部分にあるとは考えられまいか。焦点深度もあながち間違いではないのではとの思いを強くした次第である。

（中澤 満）

編集顧問 宇山昌延 清水弘一 玉井 信 塚原 勇 初田博司 馬嶋昭生 増田寛次郎
三宅養三

編集委員 大野重昭 水流忠彦 寺崎浩子 中澤 満 西田輝夫 根木 昭（五十音順）

臨床眼科（第61巻 第1号）

2007年1月15日発行（毎月1回15日発行）

定価 2,835 円（本体 2,700 円＋税 5%）

（2007 年年始め予約購読料 41,660 円
増刊号を含む 13 冊、税込・送料弊社負担）

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷 5-24-3

電話 本誌編集室 (03) 3817-5706 FAX (03) 3815-7802

E-mail: ringan@igaku-shoin.co.jp

販売部直通 (03) 3817-5659・5660

振替口座 東京 00170-9-96693 番

印刷所 三報社印刷(株) 電話 (03) 3637-0005

広告申込所 (株) 文京メディカル 電話 (03) 3817-8036

- ・ Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 5-24-3 Hongo Bunkyo-ku, Tokyo © 2007, Printed in Japan.
- ・ 本誌に掲載された著作物の複写・複製・転載・翻訳・データベースへの取り込みおよび送信（送信可能化権を含む）に関する許諾権は医学書院が保有しています。
- ・ 医学書院ホームページ（インターネット）は Web <http://www.igaku-shoin.co.jp> です。「臨床眼科」のページにて最新号の目次、バックナンバーを直接閲覧頂けます。Web <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/ringan/>
- ・ JICIS<(株)日本著作出版権管理システム委託出版物>
本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム（03-3817-5670）の許諾を得てください。

担当 能藤・風間・中田